

中国車の競争力を徹底分析

～クルマをどう変えようとしているか？そして、日本に商機はあるのか？～

－講師－

株式会社国際経済研究所 上席研究員

中国モビリティ研究者 八杉 理 氏

日 時	2026 年 9 月 1 6 日 (水)	午後 3 時～5 時
受講方法	会場受講／ライブ配信／アーカイブ配信(2 週間、何度でもご視聴可)	
会 場	紀尾井フォーラム 東京都千代田区紀尾井町4-1 ニューオータニガーデンコート1F	

[重点講義内容]

中国車は EV・SDV 化によりクルマづくりを変えようとしている。中国の主要メーカーは製品差別化による早期の開発から販売・実装を実現している。特に、車室内空間においては、テクノロジー、コンフォート、オリジナリティ、セーフティ感などをキーワードに、ユーザビリティの精度向上を進めている。

本セミナーにおいては、中国メーカー(OEM、サプライヤー)の事業体制と、その企画開発・設計の考え方・取組み、調達の仕組み・サプライチェーンなどの現状を理解する。

こうした中国メーカーの“強み”を整理した上で、2026 年度計画目標とその進捗状況や最新トレンドを把握して、今後の日本企業が取り組むべき示唆を得ていく。

1. 中国車の強み:競争優位性を構造的に捉える
2. 中国車の技術・商品:ユーザビリティ重視の製品化
3. 中国車の開発取組み:サプライヤーとサプライチェーン
4. 中国車の開発方向と課題:コックピット・SDV/AIDV・車室内
5. 日本企業の対応と商機への示唆 他
6. 質疑応答／名刺交換

※本セミナーは講演者個人による情報収集、分析、見解であり、所属する会社やその関連機関等とは一切関係がありません。

PROFILE 八杉 理(やすぎ おさむ)氏

1990 年代初頭より中国現地にて自動車産業研究を開始。帰国後はトヨタ自動車株式会社が全額出資・連結の調査コンサル・マーケティング会社に勤務。これまで、トヨタブランドの海外コーポレートマーケティング PDCA 構築を手掛けた他、大手広告代理店とともに商品・技術ネーミング開発にも携わるシニアマーケティングアナリストを歴任。豊富な現地の人脈ネットワークを活用し、常にリアルな中国を伝えている。今年 4 月に国際経済研究所に入所、中国・ASEAN・インド等を重点に自動車産業研究を継続中。明治大学大学院商学研究科博士課程、中国人民大学商学院中国産業経済学シニア・スカラー修了。外部執筆・講演歴多数。

